

圧倒的なスケールと緊張感溢れるリアルな映像。

レクイエム

戦争に「英雄」など存在しない。これは、一人の男が仲間贈る鎮魂歌。

各界絶賛!

すさまじい戦闘とその後にくる恩讐の日々。
それにしても、このスケール!
中国映画はハリウッドを超えるのか。

大谷昭宏 (ジャーナリスト)

戦後まで満州にいた私は、国共内戦の影響を受けた。
同じ民族が権力闘争し、前線での悲惨な生々しい人間ドラマは感涙を呼ぶ。

宝田明 (俳優)

たった一人の戦争だ。しかし、主人公グーさんが握りしめているのは、
銃と弾丸ではなく、仲間へ届ける名誉と花束だ。

内藤剛志 (俳優)

国共内戦で戦死した部下の名誉回復のため闘う元上官がえぐる
中国の革命と権力の深部。それは無数の悲しみ。

萩谷順 (ジャーナリスト)

戦争ほど残酷なものはない。人間とは実に愚かな生きものである。
この非業の中、尊い命を落とした者達はどんな思いであったろう。
中国吉林省で生まれた僕は、わが身に置き換えてこの戦士達を見た。
感銘深い映画に久しぶりに会えた。

板東英二 (タレント)

すべての戦争映画を超える凄絶な戦闘シーン、
劇的な名誉回復への道、真実の重みに圧倒されました。

宮川俊二 (キャスター)

*順不同、敬称略

『女帝[エンペラー]』のフォン・シャオガン監督が描く渾身の一作。
中国“国共内戦”によって引き起こされた真実に基づく感動の物語。

中華人民共和国建国前夜に起こった“国共内戦”を美化することなく、戦うことの愚かさ
や人間の持つ脆さ、強さを描いて、中国で公開されるや驚異的な大ヒットを記録し、中国
のアカデミー賞にあたる第17回金鶏百花映画祭で、最優秀作品・監督・主演男優・助
演男優の主要4部門を受賞した話題作が遂に日本で公開されます。毛沢東率いる人民
解放軍と蒋介石率いる国民党軍が激しい戦いを続けるなか、47名の部下を失い、ただ
一人、生き残った兵士が、仲間の名誉を取り戻すため、その後の人生を捧げる真実に
基づいた物語。迫力溢れる映像と卓越した演出力で描いたのは『女帝[エンペラー]』の
フォン・シャオガン監督。主演はフォン監督作品の常連で、本作で主演に抜擢された実力
俳優のチャン・ハンユー。偉大な解放戦争として勝利の名の下に隠されてきた悲劇を
正面から捉えた画期的な本作。2009年、あなたは変わりゆく中国の目撃者となる。

あの時、撤退のラッパは鳴っていたのかー。
47名の部下を失った男の慟哭が史実の片隅で、こだまするー。

第2次世界大戦後、中華人民共和国建国前夜一、人民解放軍と国民党軍の戦いの中
で、最も死者が多く、最も熾烈な戦いと言われた淮海戦役が勃発。人民解放軍139団3
營第9連隊長グー・ズーティ以下48名の部隊は、撤退のラッパが鳴らされるまで、旧炭
鉱を死守せよという指令を受ける。しかし、圧倒的に数で勝る国民党軍の攻撃に、部
下たちは次々と命を落としていく。負傷した兵士が死に際に「ラッパの音が聞こえた」と
グー・ズーティに撤退の進言を遺すが合図を聞いていなかったグー・ズーティは戦いを
続ける。だがその時すでに他の部隊は撤退しており、自分の部隊だけ全滅という最悪
の結果だけが残った。そして戦場に散った仲間は、名誉の戦死ではなく、失踪者扱いに
なっていることが分かる。果たしてあの時、撤退のラッパは鳴っていたのか…。そして仲
間の名誉は取り戻せるのか…。グー・ズーティの長く険しい第二の人生が始まったー。



「中国“国共内戦”とは」

“国民革命”に向けて共同歩調(国共合作)だった中国共産党と中国国民党は次第に互いの利害から対立。1946年6月26日、国民党軍が中国共産党(人民解放軍)の支配地区に侵攻する形で、内戦(国共内戦)に突入した。当初は兵力・装備に勝る国民党軍が有利に戦局を進めたが、農民を中心とする民衆は、共産党(人民解放軍)を支持。結果、1949年、共産党による中華人民共和国が建国された。

戦場のレクイエム

監督:フォン・シャオガン(「インセントワールド-天下無敵」[女帝[エンペラー]])
キャスト:チャン・ハンユー / ドン・チャオ / ユエン・ウェンカン / タン・ゼン / フー・ジュン
2007年 中国映画 原題:集結 上映時間:124分 シネマスコープ ドルビーデジタル 字幕翻訳:税田春介
配給:フロドメディア・スタジオ 15 Broadcast

<http://requiem-movie.jp/>



powered by
ハリウッドチャンネル

1.17(SAT) ロードショー
特別鑑賞券 ¥1,500 (税込) 好評発売中!

日比谷・東宝映画街 / 全席指定制 (初回を除く)

シヤンテシネ

03-3591-1511 www.tohotheater.jp

